

大阪千代田短期大学幼児教育科 実務経験をいかした実践的授業科目一覧(2019年度)

専門科目

太字下線が実務経験を持つ担当教員

科目名	習・実習 講義・演	単位	担当教員	実務経験の概要	実務経験と関連する学び
保育内容領域に関する 専門的事項	幼児と健康	演	1 <u>吉井 英博</u>	小学校教諭として体育指導にあたってきた。その中で一次救命処置を取り入れた実践授業が新聞を通じて紹介されるなど、子どもの命と健康を守る教育を行ってきた。	「健康」に関する理論にとどまらず、保育の現場で子どもの健康を守る活動について具体的に学ぶ
	幼児と人間関係	演	1 <u>木野 仁美</u>	保育士・保育カウンセラー・スクールカウンセラー・発達相談員として、子どもと保護者への相談業務にかかわってきた。また市町村主催の子育てフォーラムなどで講演を行い、発達支援に悩む教員・保育士など専門職に向けてのアドバイスにもとりくんでいる。	子どもと保護者への相談業務にかかわった経験をふまえ、子どもをとりまく人間関係について理解を深める授業をおこなう。
保育内容の指導法	保育内容総論	演	1 <u>澤 ひとみ</u>	26年にわたる実務経験の中で、公立幼稚園の現場担当者を経て園長・教育委員会指導主事を務めてきた。園長時代には、文部科学省人権教育研究指定校の指定も受けている。	幼児教育・保育の現場担当者と現場の保育者を指導するものとの両方の観点から、指導計画の作成についてアドバイスをおこなっている。
	保育内容の指導法(健康I)	演	1 <u>吉井 英博</u>	小学校教諭として体育指導にあたってきた。その中で一次救命処置を取り入れた実践授業が新聞を通じて紹介されるなど、子どもの命と健康を守る教育を行ってきた。	保育の現場で子どもの健康を守る活動について具体的に学ぶ
	教職・保育者論	講	2 <u>板倉 史郎</u> , 伊藤 一雄, 葛目 巳恵子, 八田 真美	小学校教員として子どもの教育に携わってきた。教員組織のリーダーである「首席」を5年か努め、教員への指導や教育実習の指導担当教員のコーディネートに取り組んだ。	子どものサインにいかにつぶか、保護者とのように関わるかについて学ぶ。
	特別支援教育	演	1 <u>宮本 直美</u>	小学校教員として子どもの教育に携わってきた。在職中に市の就学相談員・特別支援コーディネーターとして支援を要する幼児へ就学支援をおこなった。	特別なニーズを持つ子どもについての理解を深め、特別支援教育コーディネーターや保育者など支援者の役割について学ぶ。
	教育課程論	講	2 <u>澤 ひとみ</u>	26年にわたる実務経験の中で、公立幼稚園の現場担当者を経て園長・教育委員会指導主事を務めてきた。園長時代には、文部科学省人権教育研究指定校の指定も受けている。	教育・保育課程の役割・機能・意義を理解する。各施設の保育実践に即した教育・保育課程編成の方法を理解する。
	教育実習	実	4 <u>板倉 史郎</u> , 寄 ゆかり, 本田 和隆 他	小学校教員として子どもの教育に携わってきた。教員組織のリーダーである「首席」を5年か努め、教員への指導や教育実習の指導担当教員のコーディネートに取り組んだ。	実習で学ぶべきこと、実習生に求められることについて現場の実態に即した学びを行うことができる。
	教育実習指導	演	1 <u>板倉 史郎</u> , 寄 ゆかり, 本田 和隆 他		上に同じ
保育と福祉	保育原理	講	2 <u>澤 ひとみ</u>	26年にわたる実務経験の中で、公立幼稚園の現場担当者を経て園長・教育委員会指導主事を務めてきた。園長時代には、文部科学省人権教育研究指定校の指定も受けている。	保育の意義や方法、理念と概念、歴史に関する基礎知識を身につける。子どもを取り巻く環境の変化とニーズの多様性、課題を知り、保育の社会的役割と責任を学ぶ。

科目名		習・実習 講義・演	単 位	担当教員	実務経験の概要	実務経験と関連する学び
子ども家庭福祉	講	2	<u>本田 和隆</u>	保育園を経営する NPO 法人において社会福祉士として、また保育園園長として勤務	子どもや親への支援のしくみ・方法や地域を視野に入れた支援の基礎について学ぶ。	
社会福祉	講	2	<u>本田 和隆</u>	上に同じ	上に同じ	
子ども家庭支援論	講	2	<u>宮本 直美</u>	小学校教員として子どもの教育に携わってきた。在職中に市の就学相談員・特別支援コーディネーターとして支援を要する幼児へ就学支援をおこなった。	子育て家庭への支援として保育者として求められるものについて学ぶ。	
子ども家庭支援の心理学	講	1	<u>木野 仁美</u>	保育士・保育カウンセラー・スクールカウンセラー・発達相談員として、子どもと保護者への相談業務にかかわってきた。また市町村主催の子育てフォーラムなどで講演を行い、発達支援に悩む教員・保育士など専門職に向けてのアドバイスにもとりくんでいる。	子どもと保護者への相談業務にかかわった豊かな経験をふまえ、子どもをとりまく人間関係について理解を深める授業をおこなう。	
保育実習 I (保育所)	実	2	板倉 史郎, 寄 ゆかり, <u>本田 和隆</u> 他	保育園を経営する NPO 法人において社会福祉士として、また保育園園長として勤務	実習で学ぶべきこと、実習生に求められることについて現場の実態に即した学びを行うことができる。	
保育実習指導 I (保育所)	演	1	板倉 史郎, 寄 ゆかり, <u>本田 和隆</u> 他	保育園を経営する NPO 法人において社会福祉士として、また保育園園長として勤務	実習で学ぶべきこと、実習生に求められることについて現場の実態に即した学びを行うことができる。	

幼児と健康

吉井 英博

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	1	回数	15
年次 学期	幼1・前		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

領域「健康」の指導について、幼児の健やかな心と体を育てるための基本的な生活習慣や安全な生活、運動発達などの側面から理解する。

● 到達目標

乳幼児期の運動発達の特徴を通して、身体の諸機能の発達と生活習慣について理解する。また、その健康課題を理解することにより、乳幼児の健やかな発達はどうかを考える力を身につける。

履修のルール

授業計画

1. 領域「健康」からみる乳幼児期の生活環境
2. 健康とは－その定義と乳幼児の健康の意義－
3. 現代における乳幼児の身体的発達
4. 現代における乳幼児の生理的発達
5. 身体的発達、生理的発達からみる健康課題
6. 発達の特徴からみる乳幼児期の生活習慣の獲得
7. 年齢別、発達の特徴による乳幼児期の生活リズムの形成
8. 保育現場での乳幼児の安全への意識
9. 乳幼児期に起こりやすい怪我と病気
10. 保育現場における応急処置の基礎および病気の予防
11. 乳幼児期の運動発達の特徴
12. 運動発達の側面からみた運動コントロール能力
13. 日常生活における乳幼児の動きとその配慮
14. 乳幼児期の遊びとしての運動の捉え方
15. 領域「健康」の学習のまとめを ICT を用いて発表する

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験 (50%)
レポート		
その他	50	・学習のまとめの発表内容及び成果 (30%) ・出席状況 (20%)

教科書等

● 教科書等

- ・勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行 編『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康 [第2版]』みらい 2,100円+税
- ・平成29年度 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 チャイルド本社 500円+税

● 参考書

予習・復習

オフィスアワー

幼児と人間関係

木野 仁美

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性
2.知識・技術	4.人権・共感

単位	1	回数	15
年次 学期	幼1・前		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

現代社会における人間関係の育ちについて理解し、幼児教育における他者との関係の中で育つ、人と関わる力について理解する。

● 到達目標

領域「人間関係」の基盤となる乳幼児期の人間関係の発達について、保育環境を中心として理解する。また、現代社会における乳幼児を取り巻く人間関係についての課題を理解する。

履修のルール

授業計画

1. 現代社会における乳幼児期の人間関係とその社会背景
2. 乳児期における人間関係の発達
3. 幼児期における人間関係の発達
4. 人との関わり（身近な大人との関係から）
5. 人との関わり（遊びの中で育まれる関係から）
6. 発達の側面からみる乳幼児期の自立心の芽生え
7. 発達の側面からみる乳幼児期の共同性の育ち
8. 集団の中での規則やルールを理解することから育つ人間関係
9. 発達の側面からみる乳幼児期の道徳性の芽生え
10. 自己理解と他者理解
11. 発達とともに広がる人との関係性
12. 家族の中の自分、地域の中の自分
13. 保育現場での人間関係の中で育つ力
14. 幼小接続の観点から人間関係を理解する
15. 人間関係と子どもの発達を年齢を縦断して見通す

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験(70%)
レポート		
その他	30	授業内での課題やグループワーク(態度や積極性も含む)(30%)

教科書等

● 教科書等

塚本美知子 編著『対話的・深い学びの保育内容 人間関係』萌文書林 1,800円+税
佐々木晃 著『0～5歳児の非認知的能力 事例でわかる！社会情動的スキルを育む保育』チャイルド本社 1,600円+税
平成29年度『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 500円+税

● 参考書

予習・復習

オフィスアワー

保育内容総論

澤ひとみ

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性	
◎	2.知識・技術	4.人権・共感	
単位	1	回数	15
年次 学期	幼1・前		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

幼稚園教育要領等を総合的に理解し、5領域のねらい、及び内容が相互に繋がっていることを具体的な乳幼児の姿と重ね合わせながら、「遊びを通して育つ」ことを理解する。また、幼児期に育みたい資質、能力についても理解する。

● 到達目標

幼稚園教育要領等をふまえた幼稚園教育における指導の考え方を理解する。幼児教育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達に応じた指導計画を立案できることを目標とする。

履修のルール

授業計画

1. 幼児教育における遊びを通じた指導とは（幼稚園教育要領とは）
2. 幼児教育における5領域のねらい及び内容とそのつながり
3. 保育現場における遊びの実際（ビデオ鑑賞による）から、「環境による保育」を捉える
4. 遊びの中にある教育活動をどうとらえるか
5. 乳幼児期の子どもも理解（保育園や未就園児の子どもの生活と遊び）
6. 支援を要する子どもも理解（子どもの生活と遊び）
7. 幼小接続、学びの連続性（領域から教科へ）
8. 幼小接続の相互の教師の理解
9. 乳幼児の発達を見据えた教育課程、指導計画
10. 長期指導計画、短期指導計画の特徴の理解
11. ひとつの行事について長期計画の立案
12. 長期計画案をもとに短期計画を立案する
13. 行事のために必要な指導法（ICTの活用法）
14. 模擬保育に向けた指導計画案立案
15. 模擬保育の実施、評価と改善（振り返り）

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	50	授業への参加状況、ミニレポート等の提出物、授業態度による評価（50%）、定期試験の成績（50%）

教科書等

● 教科書等

神長美津子・津金美智子・田代幸代 編著『保育内容総論』
光生館 1,800円＋税
教材セット（どろだんごキット、色画用紙、教育おりがみ）
820円（税込）

● 参考書

内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年度 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 500円＋税

予習・復習

予習：シラバスを参考に教科書を読んでおくこと
復習：配付資料などを参考に授業内容を振り返っておくこと

オフィスアワー

保育内容の指導法(健康 I)

吉井 英博

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	1	回数	15
年次 学期	幼1・後		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

現代社会の状況をふまえた幼児の心身の発達の知識 (ICT の活用含む)、その指導のための実践方法を学ぶ

● 到達目標

幼稚園教育要領等の領域「健康」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、幼児の健やかな心と体を育てるための基本的な生活習慣や安全な生活、運動発達の特徴を理解し、適切な指導方法を身につける

履修のルール

授業計画

1. 幼稚園教育要領等における領域「健康」のねらい及び内容の取扱いの理解
2. 基本的な生活習慣の獲得と形成
3. 基本的な生活習慣の獲得をするための援助
4. 基本的な生活習慣の獲得を目指した保育計画立案
5. 基本的な生活習慣の獲得を目指した保育計画のための ICT を用いた教材研究
6. 保育計画案の実施 (模擬保育)
7. 模擬保育の評価と改善 (振り返り)
8. 心身の発達の特徴に応じた保育環境の整え方 (気になる子、障害児、肥満児、家庭的背景)
9. 領域「健康」の観点からみた現代社会の問題点を探る
10. 現代社会での問題点についてグループディスカッション
11. 運動遊びを中心とした保育計画立案
12. 運動遊びを中心とした保育計画のための教材研究
13. 保育計画案の実施 (模擬保育)
14. 模擬保育の評価と改善 (振り返り)
15. 領域「健康」から考える健やかな心と身体を育む保育 (まとめ)

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験 (50%)
レポート		
その他	50	・学習のまとめの発表内容及び成果 (30%) ・出席状況 (20%)

教科書等

● 教科書等

平成 29 年度 幼稚園教育要領 (最新版)、保育所保育指針 (最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (最新版)
学生に対する評価 チャイルド本社 500 円 + 税

● 参考書

予習・復習

オフィスアワー

教職・保育者論

板倉 史郎, 伊藤 一雄, 葛目 巳恵子, 八田 真美

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
<input type="radio"/>	1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/>	3.探究・主体性
<input checked="" type="radio"/>	2.知識・技術	<input type="radio"/>	4.人権・共感
単位	2	回数	15
年次 学期	幼1・前		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

学校教育・保育の目的と教員・保育士養成の変遷について概説し、現代社会における教職・保育職について、その意義、役割、資質、職務について学習する。

● 到達目標

教員の職務について理解する。

履修のルール

授業計画

1. 学校の目的～教育基本法、学校教育法をもとに～ (伊藤)
2. 教員の種類、職階と学校運営について (伊藤)
3. 各教員の役割及びチームとしての取り組みの重要性 (伊藤)
4. 教員の職務の理解、その対象と学校外の専門家との連携 (伊藤)
5. 教員の研修及び職務上の必要性について (伊藤)
6. 教員という職業の特徴～他業種との共通点、相違点～ (伊藤)
7. 教員の職務 (1) 子どものサインに気づく (板倉)
8. 教員の職務 (2) 保護者対応 (板倉)
9. 保育士の職務についての理解、教職との相違点、共通点 (板倉)
10. 幼稚園教諭と保育士の職務の相違点、共通点 (板倉)
11. 幼児教育の基礎的事項 (板倉)
12. 幼児教育に求められる専門性 (板倉)
13. 幼稚園、保育所での教育活動とチームとしての教育体制 (板倉)
14. 特別支援学校、特別支援学級の教員と職務についての理解 (板倉)
15. 教職・保育職の意義及び教員・保育士の職務のまとめ (板倉)

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験		
レポート		
その他	100	授業への参加状況、ミニレポート、小テスト等により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

伊藤一雄ほか編著『新しい教職基礎論』サンライズ出版 1,900円+税

● 参考書

予習・復習

オフィスアワー

特別支援教育

宮本 直美

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	1	回数	15
年次 学期	幼1・前		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

現代の特別支援教育に至る今日までの歴史の変遷、基本理念、制度、教育内容や保育内容について理解する。現代社会における特別なニーズを持つ子どもたちの実態について理解した上で、保育者として特別支援教育に関するシステム、指導法の基本的な理解をする。

● 到達目標

障がいや貧困、外国をルーツに持つことなど、様々な理由により特別なニーズを持つ幼児・児童及び生徒の理解をするとともに、子どもを支える教育や制度についての知識を身に着ける。特別支援教育の在り方とその支援方法について理解することを目標とする。

履修のルール

最初の授業時に指示する。

授業計画

1. 特別支援教育の理念と基本的な考え
2. 特別支援教育に至る障がい児保育・教育の歴史の変遷と現行制度
3. 特別なニーズを持つ子の理解①肢体不自由・病弱・医ケア・重身等
4. 特別なニーズを持つ子どもの理解②視覚・聴覚・言語障がい
5. 特別なニーズを持つ子どもの理解③知的障がい・発達障がい
6. 特別なニーズを持つ子どもの理解④その他多様な状態の子ども
7. 個別の支援計画と指導計画
8. 特別支援教育における教育課程と特別支援学校における教育の概要
9. 特別支援学校と支援学級、通級指導教室における教育と自立活動
10. 特別支援教育コーディネーターの役割
11. 特別支援学校におけるセンター的機能とその役割
12. 幼・小・中における特別支援教育～校内支援体制、その仕組み～
13. 幼・小・中における特別支援教育～小学校及び地域との連携教育
14. 保護者や家族に対する理解と支援及び保護者間交流の意義と支援
15. 障がい児支援の制度理解と地域における自治体や専門機関との連携

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験
レポート		
その他	50	授業への参加状況、確認テストやミニレポート、授業態度による評価(50%)と、試験における評価(50%)により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

尾野明美・小湊真衣・奥田訓子 編『特別支援 教育・保育概論』
萌文書林 2,000円+税
小林保子・駒井美智子・河合高鋭 編『子どもの育ち合いを
支えるインクルーシブ保育』大学図書出版 1,600円+税(次
年度「特別支援教育・保育演習」でも使用)

● 参考書

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所『特別支援教育
の基礎・基本 新訂版』2,800円+税

予習・復習

今回の講義までに、講義内容に対応する教科書の章を読み予習しておくこと。復習しておくべき課題については授業中に指示する。

オフィスアワー

月・木・金の昼休みと放課後

教育課程論

澤ひとみ

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
○	2.知識・技術	◎	4.人権・共感
単位	2	回数	15
年次 学期	幼1・後		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

保育において教育・保育課程が有する役割・機能・意義を理解する。教育・保育課程編成の基本原則及び各施設の保育実践に即した教育・保育課程編成の方法を理解する。

● 到達目標

幼稚園教育要領等を基準として各施設で編成される教育・保育課程について、その意義や編成の方法についてカリキュラム・マネジメントを含めて理解する。

履修のルール

授業計画

1. 歴史からみる教育課程・保育課程とは
2. 保育における指導計画
3. 指導計画作成の基本
4. 計画に必要な子ども理解
5. 保育所における保育課程と指導計画
6. 認定こども園における教育・保育課程と指導計画
7. 0歳児の指導計画
8. 1～2歳児の指導計画
9. 3～5歳児の指導計画
10. 幼稚園における教育課程と指導計画
11. 小学校との連携
12. 行事を活かす保育
13. さまざまな保育方針と教育・保育課程
14. 指導計画立案とその方法
15. 保育の質を高める計画と評価・カリキュラム・マネジメント

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験を行う。
レポート		
その他	40	授業への参加状況、ミニレポート等の提出物、授業態度による評価(40%)、定期試験の成績(60%)

教科書等

● 教科書等

松村和子・近藤幹夫・椛島香代『就学前教育の計画を学ぶ』
ななみ書房 2,000円+税

● 参考書

予習・復習

予習：シラバスを参考に教科書を読んでおくこと

復習：配付資料などを参考に授業内容を振り返っておくこと

オフィスアワー

教育実習

板倉 史郎, 寄 ゆかり, 本田 和隆 他

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性	
◎ 2.知識・技術		4.人権・共感	
単位	4	回数	15
年次 学期	幼1・前集		[幼必]

授業内容

● 目的と概要

- この実習は、幼稚園教諭2種免許を取得するための基礎及び応用的な実習である。実習を通じて、幼稚園教諭として必要な知識と技術を身につけ、教員としての資質を向上させることを目的としている。
- 教育実習では、幼稚園の教育活動に参加し、幼稚園教諭の業務と役割について実践的に学ぶ参加実習、教育活動にかかわる計画を立案し、部分実習、責任実習に参加する。また、そこでの実習指導者指導のもと、幼稚園教諭に必要な資質、技能を習得する。

● 到達目標

- 幼稚園の機能、社会的役割および幼稚園教諭の業務内容を理解する。
- 幼稚園教諭の姿から子どものかかわり方を理解する・子どもの発達に応じた関わり方を学ぶ
- 保育計画(保育指導案)の立案および実施できる・幼稚園教諭として必要な資質および知識、技術を身につける
- 幼児教育に対する考え方を深める

履修のルール

- 1回生時「観察実習(1週間)」、2回生時「本実習(3週間)」を行う。
- 事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。

授業計画

1. 実習ハンドブック 参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

[追記事項]

〈実習に関わる内容〉・訪問指導・実習記録、指導案に関わる指導・子ども理解と関わり方への指導・現場にて受けた指導内容の確認等

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・実習施設による評価(60%) ・実習日誌(20%) ・実習報告(実習報告書、報告会での内容)(20%)

教科書等

● 教科書等

- 小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 1,400円+税
- 本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) 500円

● 参考書

予習・復習

- 毎回提示される課題については、提出期日も含めて必ず行うこと

オフィスアワー

教育実習指導

板倉 史郎, 寄 ゆかり, 本田 和隆 他

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性	
2.知識・技術		4.人権・共感	
単位	1	回数	15
年次 学期	幼1・通		[幼必]

授業内容

● 目的と概要

本授業は、教育実習に参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。

講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養い、及び幼稚園の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。幼稚園の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

● 到達目標

- ・幼稚園の教育活動を理解する
- ・幼稚園教諭として必要とされる保育の内容を学ぶ
- ・子どもの発達の基礎知識に基づき、保育計画(保育指導案)が作成できる
- ・実習記録が書けるようになる
- ・幼稚園の制度的理解を深める
- ・幼稚園教諭として求められる基礎的な知識・技能を学ぶ

履修のルール

- ・事前指導は4/5以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと(719実習・キャリアサポート室か板倉研究室)
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある

授業計画

1. オリエンテーション(教育実習とは)
2. 幼稚園の役割と機能、幼稚園教諭の職務の理解
3. 幼稚園の一日の流れ
4. 保育技術の習得
5. 教育実習の目標と課題(カード作成)
6. 実習記録の構成
7. 実習記録の記述方法
8. 参加・観察実習事前指導①～始めての実習に参加すること～
9. 参加・観察実習事前指導②～実習での自己課題の確認～
10. 実習振り返りによる自己課題の明確化
11. 実習記録の改善点～本実習に向けて～
12. 教育実習の目標と課題(カード作成)
13. 教育実習事前指導①～本実習の理解～
14. 教育実習事前指導②～自己課題の確認～
15. 実習振り返りによる自己課題の明確化②まとめ

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業での課題提出(20%) ・課題の到達状況(ボランティア参加を含む)(40%) ・授業に取り組む姿勢(受講態度)(25%) ・授業における参加状況(15%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社1,400円+税
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)500円

● 参考書

授業内で紹介する

予習・復習

オフィスアワー

保育原理

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性	
◎	2.知識・技術	4.人権・共感	
単位	2	回数	15
年次 学期	幼1・前		[保必]

澤ひとみ

授業内容

● 目的と概要

保育の意義や方法、理念と概念、歴史に関する基礎知識を身につけることを目的とする。そして、子どもを取り巻く環境の変化とニーズの多様性、課題を知り、保育の社会的役割と責任を学ぶ。

● 到達目標

保育の意義及び目的について理解する。
保育に関する法令及び制度を理解する。
保育所保育指針における保育の基本について理解する。
保育の思想と歴史の変遷について理解する。
保育の現状と課題について理解する。

履修のルール

授業計画

1. オリエンテーション／保育の目的
2. 保育の歴史
3. 諸外国と日本の保育の現状と課題
4. 保育の基本①（保育の基盤と養護の意味）
5. 保育の基本②（保育者に求められる専門性）
6. 保育の内容①（0・1・2歳）
7. 保育の内容②（3・4・5歳）
8. 保育の内容③（保育の内容と養護）
9. 保育の方法①（保育実践における原則／環境を通じた保育）
10. 保育の方法②（保育の過程／保育の計画）
11. 保育におけるさまざまな配慮①（健康および安全／食育）
12. 保育におけるさまざまな配慮②（特別な配慮を要する子ども）
13. 保育の場における子育て支援
14. 保育の専門性と質の向上
15. まとめ（保育の本質とは）

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	40	授業への参加状況、ミニレポート等の提出物、授業態度による評価（40%）、定期試験の成績（60%）

教科書等

● 教科書等

柴崎正行編著『改訂版 保育原理の基礎と演習』わかば社
1,800円＋税
内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年度 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 500円＋税

● 参考書

予習・復習

予習：シラバスを参考に教科書を読んでおくこと
復習：配付資料などを参考に授業内容を振り返っておくこと

オフィスアワー

子ども家庭福祉

本田 和隆

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
○	2.知識・技術	◎	4.人権・共感
単位	2	回数	15
年次 学期	幼1・後		[保必]

授業内容

● 目的と概要

子どもたちが抱える多様な問題は、子どもと家庭を取り巻く社会的背景の急激な変化や、現代家族の変容と深く関わっている。子どもと家族に対する支援の必要性を念頭に、様々な法律や福祉制度の基本を幅広く学ぶ。社会の発展に伴い変化してきた「子どものとらえ方」について学ぶ。子どもや親への支援のしくみ・方法や地域を視野に入れた支援の基礎について学び、その課題や展望を学ぶ。子どもの福祉を専門的な視点から考えられるように、視覚教材や事例を紹介し具体的に理解できるようにする。

● 到達目標

- 子ども家庭福祉を学ぶために必要な基礎知識を理解する
- 法制度をはじめとした子ども・家庭を支えるさまざまな制度の枠組みを理解する
- 現代の子育てに関わる問題の概要を理解する

履修のルール

- 前期「社会福祉」で学習した内容を踏まえて授業を進める。

授業計画

- 子どもと家庭から福祉を考える
- 現代社会における子どもと家庭
- 子ども家庭福祉の理念と権利保障
- 子ども家庭福祉の歴史的展開
- 子ども家庭福祉に関する法律
- 子ども家庭福祉の実施体制と財源
- 母子の健康と母子保健・医療・福祉サービス
- 保育に関するサービス
- 子育て・子育て支援と児童健全育成
- 養育環境に問題がある子どもと家庭の福祉
- 障害のある子どもの福祉
- ひとり親家庭の福祉
- 情緒・非行問題のある子どもの福祉
- 子ども家庭福祉サービスの担い手
- まとめ

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験
レポート	0	
その他	30	授業への参加状況、ミニレポート、授業態度による評価(30%)と、試験における評価(70%)により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

講義時にプリント教材を配布
才村純・芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治編『子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門』ミネルヴァ書房 2,200円＋税

● 参考書

伊達悦子・辰己隆編『改訂 保育士をめざす人の児童家庭福祉』みらい 2,000円＋税
講義時にプリント教材を配布

予習・復習

初回の講義において全体の流れと到達目標を説明するとともに、毎回の講義において予習・復習しておくべき課題を提示する。

オフィスアワー

授業終了後、可能な限り対応する。

社会福祉

本田 和隆

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性	
2.知識・技術		◎ 4.人権・共感	
単位	2	回数	15
年次 学期	幼1・前		[保必]

授業内容

● 目的と概要

個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、その意義と理念を理解すること。また、社会保障の意義、社会保障と私たちの生活との関連など、自分たちの暮らしを通して活用できる知識を身に付けること。
個人が自立した生活を営むことを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養う。また、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて学び、自助から公助に至る過程を理解する。

● 到達目標

1. 福祉を必要とする人々を取り巻く様々な状況(生活問題など)を理解している。
2. 社会福祉の全体像を踏まえ、その知識を生かしながら保育士として実践する力量を身につけている。

履修のルール

- ・福祉分野への就職を目指す学生向け。
- ・授業中に次回の子習内容や復習内容を指示する。

授業計画

1. 保育と社会福祉
2. 社会福祉の道すじ①
3. 社会福祉の道すじ②
4. 社会福祉の意味と考え方①
5. 社会福祉の意味と考え方②
6. 社会福祉の実施体制と財源
7. 暮らしを支える社会保障制度
8. 子どもと家族の福祉
9. 障害のある人の福祉
10. 高齢者の福祉
11. 地域福祉
12. 社会福祉の専門職と倫理
13. 保育士とソーシャルワーク
14. 利用者の権利擁護とサービスの質
15. まとめ

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験
レポート		
その他	30	受講態度、小レポート

教科書等

● 教科書等

- ・相澤譲治・杉山博昭『八訂 保育士をめざす人の社会福祉』みらい 2,000円+税
- ・『保育福祉小六法(2019年版)』(株)みらい 1,700円+税
- ・プリント教材

● 参考書

予習・復習

初回の講義において全体の流れと到達目標を説明するとともに、毎回の講義において予習・復習しておくべき課題を提示する。

オフィスアワー

授業終了後、可能な限り対応する。

子ども家庭支援論

宮本 直美

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
○	2.知識・技術	○	4.人権・共感
単位	2	回数	15
年次 学期	幼1・後		[保必]

授業内容

● 目的と概要

現代の子育て家庭の抱える課題や現状について理解するとともに、子育て家庭への支援として保育者として求められているものは何かについて検討する。また、支援体制について理解するとともにニーズに応じた多様な支援の展開について学ぶこととする。

● 到達目標

1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する

履修のルール

最初の授業時に指示する

授業計画

1. 子ども家庭支援の意義と役割
2. 子どもの発達と家族
3. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
4. 子どもの育ちの喜びの共有
5. 保育士に求められる基本的態度
6. 家庭の状況に応じた支援
7. 地域の資源の活用と自治体・関係機関との連携協力
8. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
9. 子育て支援施策と次世代育成支援施策の推進
10. ワークライフバランスと男女共同参画
11. 子ども家庭支援の内容と対象
12. 保育所を利用する子ども家庭への支援
13. 地域の子育て家庭への支援
14. 要保護児童等及びその家庭に対する支援
15. 子ども家庭支援に関する現状と課題

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験
レポート		
その他	50	授業への参加状況、確認テストやミニレポート、授業態度による評価(50%)と、試験における評価(50%)により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

吉田眞理『児童の福祉を支える 子ども家庭支援論』萌文書林 2,000円+税

● 参考書

草野いづみ編「みんなで考える 家族・家庭支援論」同文書院 2,100円+税

予習・復習

今回の講義までに、講義内容に対応する教科書の章を読み予習しておくこと。復習しておくべき課題については授業中に指示する。

オフィスアワー

月・木・金の昼休みと放課後

子ども家庭支援の心理学

木野 仁美

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	1	回数	15
年次 学期	幼1・後		[保必]

授業内容

● 目的と概要

園などの施設で子どもに関わるうえで、子どもの発達に関する知識と共に、その子どもたちを取り巻く親などの大人についても連続性での理解が求められる。この科目では、生涯にわたる発達について理解し、子どもだけではなく広い視野で大人や社会的背景を含めた子どもも理解を目指す。

● 到達目標

親と子の生涯にわたる発達に関する基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や課題について理解する。
親子関係、家族や周囲の人々との関係性での愛着の発達についての理解し、子どもと家庭を包括的に捉える視点を習得する。
子育てや子育てに関する現代の社会的状況について理解する。
子どもの精神保健について習得する

履修のルール

授業計画

1. 人の生涯の発達とは
2. さまざまな発達理論
3. 乳幼児期の発達① 0～3歳
4. 乳幼児期の発達② 4～6歳
5. 学童期・青年期の発達
6. 成人期・老年期の発達
7. 家族・家庭の機能と意義
8. 多様化する家族とその理解
9. 親子関係・家族関係の理解
10. 子育てを取り巻く社会的状況
11. 愛着形成の基礎知識
12. 子どもの生活環境と精神保健
13. 子どもの心の健康とその障害①心身症・問題行動
14. 子どもの心の健康とその障害②習癖異常・児童虐待
15. まとめ 保育者として子どもと家庭を理解すること

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験 60%
レポート		
その他	40	授業内で提示する課題 40%

教科書等

● 教科書等

本郷一夫・神谷哲司 編著『シードブック 子ども家庭支援の心理学』建帛社 1,800円+税

● 参考書

予習・復習

前期の「幼児と人間関係」で学んだ人とのかわりに関する発達についてよく復習し、理解したうえで受講すること。

オフィスアワー

保育実習Ⅰ（保育所）

板倉 史郎, 寄 ゆかり, 本田 和隆 他

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性
	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	2	回数	15
年次 学期	幼1・後集		[保必]

授業内容

● 目的と概要

本実習は、保育士資格を取得するための実習である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、その資質を向上させることを目的としている。

保育実習Ⅰ（保育所）では、保育士としての保育活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者の発達に応じた関わり方を学ぶ。

● 到達目標

- ・保育所の機能、社会的役割および保育士の業務について理解する
- ・保育士の姿から利用者との関わり方の実際を学ぶ
- ・保育計画の立案を学ぶ
- ・保育士として必要な資質および知識・技術を身につける
- ・保育に対する考え方を深める

履修のルール

- ・保育実習指導Ⅰ（保育所）への事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。

授業計画

1. 実習ハンドブック 参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

[追記事項]

〈実習に関わる内容〉・訪問指導・実習記録、指導案に関わる指導・子ども理解と関わり方への指導・現場にて受けた指導内容の確認等

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験		
レポート		
その他		・実習施設による評価(60%) ・実習日誌(20%) ・実習報告(実習報告書、報告会での内容)(20%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 1,400円+税
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)500円

● 参考書

予習・復習

オフィスアワー

保育実習指導 I (保育所)

板倉 史郎, 寄 ゆかり, 本田 和隆 他

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性
	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	1	回数	15
年次 学期	幼1・通		[保必]

授業内容

● 目的と概要

本授業は、保育実習 I (保育所) の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び保育所の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。保育所の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

● 到達目標

- ・実習の目的を理解し、実習課題を明確にする
- ・保育所の制度的理解を深める
- ・保育所を利用する子どもと家族の生活を理解し、必要とされる保育・子育て支援の概要を学ぶ
- ・保育士として求められる基礎的な知識、技能の活用方法を学ぶ
- ・子どもの発達の基本知識に基づき、保育計画(保育指導案)が作成できる
- ・実習記録が書ける

履修のルール

- ・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと (719 実習・キャリアサポート室か板倉研究室)
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある

授業計画

1. オリエンテーション
2. 実習目的を基にした実習生カードの指導、記入
3. 実習目的に基づく自己課題の明確化
4. ソーシャルスキルに関わる演習
5. 実習記録の書き方①目的とねらい
6. 実習記録の書き方②子どもの動きと保育者の動き
7. 保育計画指導案の立て方①ねらいをもった指導案
8. 保育計画指導案の立て方②つけさせたい力
9. 実習先の制度的理解
10. 保育士に必要とされる専門性
11. 実習に関わる演習①一手游び
12. 実習に関わる演習②一絵本の読み聞かせ
13. 実習直前指導
14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
15. 実習報告会

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験		
レポート		
その他	100	・授業での課題提出 (20%) ・授業に取り組む姿勢 (受講態度) (25%) ・課題の到達状況 (ボランティア参加を含む) (40%) ・授業における参加状況 (15%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 1,400 円 + 税
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)500 円

● 参考書

予習・復習

オフィスアワー